

## 産業廃棄物処理計画書

令和6年 6 月 28 日

新潟市長様

提出者

住所 新潟市北区太子堂134番地4

氏名 マルタスギヨ株式会社 本社工場  
代表取締役 平場 誠

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 025-386-1171

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	マルタスギヨ株式会社 本社工場
事業場の所在地	新潟市北区太子堂134番地4
計画期間	令和6年4月1日から 令和7年3月31日まで

## 当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	食品製造業
②事業の規模	売上高 前年度 60億 敷地面積 12.317㎡ 建物面積 7.127㎡
③従業員数	全体で 300名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	①廃プラスチック類(混合物) 自社で分別 → 処理業者へ委託 → 安定型埋立 ②木くず 自社で分別 → 処理業者へ委託 → サーマル燃料として再資源化 ③金属くず(有価物) 自社で分別 → 再生処理業者へ販売 ④汚泥(乾燥) 自社で分別 → 処理業者へ委託 → 肥料として再資源化 ⑤汚泥(液状) 自社の分離ピット → 処理業者へ委託 → サーマル燃料・肥料として使用 ⑥動植物性残さ 自社で分別 → 処理業者へ委託 → 肥料として再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

管理体制図

・廃棄物処理に関する管理体制図

保安統括者 生産本部長  
 保安管理者 生産リーダー  
 作業監督者 工務課 (廃棄物担当者)

《役割》

保安統括者

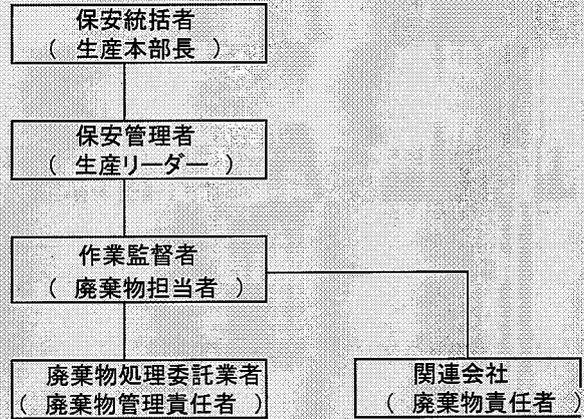
- ・廃棄物処理方針の決定
- ・廃棄物管理規定の策定

保安管理者

- ・廃棄物発生計画の策定
- ・廃棄物発生状況の把握及び改善策の検討
- ・廃棄物発生施設の維持管理状況の把握
- ・社員に対する教育、啓発

作業監督者

- ・産業廃棄物施設の維持管理、監視、関連会社に対する教育、啓発



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度 ( 5 年度 ) 実績】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
排出量	768.50 t	27.30 t	117.70 t	4.12 t	212.00 t	39.00 t	0.02 t	0.05 t
産業廃棄物の種類								
排出量	t	t	t	t	t	t	t	t

(これまでに実施した取組)

廃酸 (廃液) を自社の廃水処理施設で処理を行いました。

② 計画

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
排出量	750.00 t	25.00 t	110.00 t	4.00 t	150.00 t	30.00 t	0.01 t	0.04 t
産業廃棄物の種類								
排出量	t	t	t	t	t	t	t	t

(今後実施する予定の計画)

廃酸 (廃液) を自社の廃水処理施設で処理を行います。

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

廃プラスチック類・古紙・段ボール類の分別及び再利用をしています。

② 計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

上記と同様に継続して行きます。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 5 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類									
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									

② 計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類									
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 5 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類									
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									

② 計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の種類									
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度 ( 5 年度 ) 実績】									
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
【目標】									
② 計画	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度 ( 5 年度 ) 実績】									
① 現状	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金屑	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	全処理委託量	768.50 t	27.30 t	117.70 t	4.12 t	212.00 t	39.00 t	0.02 t	0.05 t
	優良認定処理業者への処理委託量	158.00 t	27.30 t	117.70 t	3.90 t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	768.00 t	8.10 t	117.70 t	4.12 t	212.00 t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									

① 計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック	木屑	金属	廃酸	動植物性残渣	ガラス陶器類	電池
	全処理委託量	750.00 t	25.00 t	110.00 t	4.00 t	150.00 t	30.00 t	0.02 t	0.04 t
	優良認定処理業者への処理委託量	150.00 t	25.00 t	110.00 t	3.90 t				
	再生利用業者への処理委託量	750.00 t	8.00 t	110.00 t	4.00 t	150.00 t			
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								
	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量								
	優良認定処理業者への処理委託量								
	再生利用業者への処理委託量								
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								
	(今後実施する予定の取組)								
	<p>廃酸（廃液）は自社の廃水施設で処理を行い軽減します。動植物性残渣は自社で生ごみ処理機導入し軽減して行きます。</p>								
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書（集計用シート）

提出者の名称	マルタスギヨ株式会社 本社工場	代表取締役 平塚 誠	提出者の住所	新潟市北区太子堂134番地4
事業場の名称	マルタスギヨ株式会社 本社工場		事業場の所在地	新潟市北区太子堂134番地4
内容年度	平成 6 年度			

(単位:トン)

廃棄物の種類	現状 / 計画	排出量  A	自社内での処理状況				委託先での処理状況				
			自己再生 利用量  B	うち熱 回収量  C	自己中間 処理 減量化量  D	自己最終 処分量  E	全処理 委託量  F	委託処理量のうち委託先毎の量			
								優良認定 処理業者 への処理 委託量  G	再生利用 業者への 処理 委託量  H	熱回収 認定業者 への処理 委託量  I	熱回収 認定業者 以外の熱 回収を行 う業者へ の処理 委託量  J
汚泥	現状	768.50					768.50	158.00	768.00		
	計画	750.00					750.00	150.00	750.00		
廃プラスチック	現状	27.30					27.30	27.30	8.10		
	計画	25.00					25.00	25.00	8.00		
木屑	現状	117.70					117.70	117.70	117.70		
	計画	110.00					110.00	110.00	110.00		
金属	現状	4.12					4.12	3.90	4.12		
	計画	4.00					4.00	3.90	4.00		
廃酸	現状	212.00					212.00		212.00		
	計画	150.00					150.00		150.00		
動植物性残渣	現状	39.00					39.00				
	計画	30.00					30.00				
ガラス陶器類	現状	0.02					0.02				
	計画	0.01					0.02				
電池	現状	0.05					0.05				
	計画	0.04					0.04				
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
合計	現状	1,168.69					1,168.69	306.90	1,109.92		
	計画	1,069.04					1,069.06	288.90	1,022.00		